

ろんだん
佐賀



池松 英治さん

ひよ子こども園かみみね園長

いけまつ・ひではる 1969年福岡県久留米市生まれ。佐賀大教育学部卒。クオリティゼミナール塾長・ひよ子こども園かみみね園長。2025年から同こども園グループ4園の統括園長。幼児から大学受験生まで個々の成長に合わせて教育する。佐賀市。

進路の話になると、「お母さんに聞いてみないと」と答える子がいます。この言葉を聞くと、私は親と子どもの距離について考えさせられます。

親は子どもを愛するがゆえに心配です。ただし心配が前面に出過ぎ、成績に感情的になる家庭ほど、子どもは無意識のうちに親を気にするようになります。その結果、主体性が育たず、いつの間にか依存体質になってしまう。

そのような生徒は、どうしたら成績が上がるのかを最後まで考えられず、うまくいかない原因にも向き合わないまま、同じやり方を繰り返してしまいます。思考が途中で止まり、学びが自分事になっていないのです。その結果、勉強とは「先生が説明し、分か

学ぶ力

自分の頭で格闘する時間が育てる

「ならなければ質問するもの」だと受け身に捉え、いつの間にか自ら考える機会を手放してしまうのです。

本当に伸び続ける生徒は違います。新しい単元は、まず教科書を自分で読み解きます。問題に取り組み、分からないところがあっても、すぐに答えを求めず自分の頭で考え続けます。ときには一度手放し、時間をおいて再び向き合います。

自分の頭で格闘する時間。それこそが、学ぶ力を大きく育てるのです。

クオリティゼミナールでは、小学5年生から主体的学習法が身につくように指導します。その一人が、佐賀西高

校から東京大学の成績上位1%で給付型奨学金も獲得しながら学び続けている松本真太郎君(理科一類入学・現物理学科3年)です。彼は小学4年生から学び始めましたが、当初は計算問題を間違える普通の小学生でした。中学から主体的学習法の成果が見え始め、中学3年生で共通テストの数学・英語の問題にも取り組むようになりました。

九州大学医学部医学科のA判定を取るまでになっていたある日、彼はこう言いました。「医師ではなく、東京大学理科一類を目指します」。それは、まだ親にも話していない決断でした。

私は答えました。「東大に

いった生徒はいないし、私が教えられることはもうないよ」。すると彼はこう返しました。「先生から学び方は教わりました。あとは東大までの道筋をお願いしますか」

私は改めて思いました。自分で学ぶ力を身につけた人間は何より強い! その力は一度身につけば一生の武器です。自ら課題を設定し、考え、答えを探し続ける人は、社会に出てからも課題を見つけ、道を切り拓いていくことができます。主体的学習法とは単なる勉強法ではなく、不確実な社会を生き抜く力そのものなのです。

もちろん、子どもを思えば

こそ心配になるのは自然なことです。では私たちは、子どもをどこまで支え、どこから見守ればよいのでしょうか。心配をすべて取り除くことはできませんが、少しでも胸の奥にしまい、信じて待つことができたとき、子どもはやがて自分の意思で物事に向き合うようになります。そしていつの日か、あの言葉は、こう変わります。「自分の進路だから、自分で決めます」と。

主体性は教え込むものではなく、環境の中で育まれるものです。だからこそ、ひよ子こども園グループでは保育教諭や保護者とともに学び続けています。その対話の積み重ねが、子どもたち一人ひとりの未来を、そして社会のあり方そのものを静かに変えていくはずなのです。

